

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 27 号

目 次

論説

- 国有林野事業の動向と地域特性について
— 1980年代以後の「縮小」段階にみられる特色 — 安食 和宏 (1 ~ 21)
- アフリカ文学と Oral Literature (7)
— ポーリン・スミス、カルーの声 — 赤岩 隆 (23 ~ 37)
- オーストラリア華文学 — 心水武俠小説の読解 — 荒井 茂夫 (39 ~ 45)
- ドイツ語話法詞と心態詞の多機能性について
— *Vielleicht haben Sie ja Recht.* の例に関して — 井口 靖 (47 ~ 58)
- グリム童話と日本の昔話の比較
— グリム童話に登場する Teufel の像と日本の昔話に登場する鬼の像 —
..... 太田 伸広 (59 ~ 95)
- ロンドン国際医学大会の意義について 小川眞里子 (97 ~ 108)
- 近代陶芸としての万古焼 (1) 藤田 伸也 (109 ~ 123)
- ドイツ表現主義におけるフランス文学受容 松尾 早苗 (125 ~ 144)
- 〈私〉の消去の後に 6 — 性起としての世界と人間 — 村上 直樹 (145 ~ 170)
- 小林多喜二の初期小説 — 有島武郎からの影響を受けて — 尾西 康充 (一 ~ 三)
- 近世伊勢神宮領における神仏関係について 塚本 明 (五 ~ 六)
- 仮名文字の「揺らぎ」について (上) — 仕組みと推移 — 濱 森太郎 (七 ~ 一〇)
- 神を説得した歌の力について — 三輪山惜別歌再考 — 武笠 俊一 (一〇 ~ 一三)
- 多度山美泉と田跡河の瀧 — 天平十二年聖武行幸時の萬葉詠から — 廣岡 義隆 (一五 ~ 一七)
- 北宋中期における杜詩の受容について 湯浅 陽子 (一七 ~ 二〇)

研究ノート

- コミックの物語論構築に向けて — ドイツにおける研究史概観 — 大河内朋子 (171 ~ 177)
- コンスタンス・ブラウン・クリヤマ著のマーロウ伝, *Christopher Marlowe: A Renaissance Life* (Ithaca and London: Cornell University Press, 2002) を概観する 坂本つや子 (179 ~ 189)
- 先住民養殖業協会の設立と活動 立川 陽仁 (191 ~ 204)

三重大学人文学部

2010